

2009-2010

国際ロータリー 第2660地区

地区委員会活動報告書



ガバナー 大谷 透



目次



2009－2010年度 ガバナー挨拶	1
地区ガバナー指名委員会	2
意義ある業績賞委員会	3
地区研修委員会	4
クラブ奉仕部門	
クラブ奉仕・拡大増強委員会	5
広報委員会	6
職業奉仕部門	
職業奉仕委員会	7
社会奉仕部門	
社会奉仕委員会	9
青少年奉仕部門	
新世代合同委員長会議・危機管理委員会	11
青少年活動委員会	12
ローターアクト委員会	14
インターアクト委員会	15
青少年交換委員会	17
国際奉仕・WCS部門	
国際奉仕・WCS委員会	19
ロータリー財団部門	
ロータリー財団委員会	20
財団情報・増進委員会	21
財団奨学金・学友委員会	22
研究グループ交換委員会	23
財団人道的補助金委員会	25
米山奨学部門	
米山奨学委員会	26
地区大会実行委員会	27
ロータリーの友委員会	28
地区財務委員会	30
地区資金決算書	33

地区委員会の皆様のご奉仕に感謝と敬意を表します

2009-2010年度ガバナー 大谷 透

2009-2010年度のガバナーの仕事に遣り甲斐と喜びを感じる事が出来たのは、皆様方のご協力のお陰と心より感謝を申し上げますと共に、皆様の「超我の奉仕」の心意気に敬意を表します。

ジョン・ケニーRI会長より「ロータリーの未来はあなたの手の中に」というテーマが与えられ、現在自分たちがロータリアンとして行おうとしていることが、ロータリーの未来を決めるのだと、責任と自覚を持つように励まされて始まった1年でしたが、皆様方は会長の意向を良く汲んで、それぞれの委員会活動を意義あるものとして下さいました。

・クラブ奉仕部門に於ける質にも焦点を合わせた活動、職業奉仕部門の啓蒙活動、地域社会・世界社会奉仕部門の情報交換による刺激策、青少年活動・インターアクト・ローターアクト・青少年交換夫々の委員会活動に加えてお互いのcross promotion を考慮した活動、財団部門の誠意ある情報提供と各クラブへの奉仕支援、GSE委員会のチーム編成とテキサスチームとの交流、財団奨学生委員会や米山奨学会委員会の配慮の行き届いたお世話、地区研修委員会での「ロータリーの心と実践」の編纂。 斯く項目を列挙しましたが、これらの一つ一つを思い起こし、そのために時間と労力と才能と財を奉げて委員会活動に貢献して下さった委員の方々を思い浮かべて感謝しています。

又、そのような委員会の働きが各クラブに於いてより有意義なものとなるように努力して下さったガバナー補佐の働きも忘れる事ができません。

・ガバナー諮問会と云うのは、クラブにおける歴代会長会のようなもので、決定権はないとは云うものの、誠意ある助言や親切な御指導を通して、大きな頼りになる存在であることを示して頂きました。

DLPによって地区委員は新陳代謝が行われるようになりました。

2009-2010年度を持って地区委員を退かれた方々には、改めて感謝を申し上げますと共に、今までの地区での経験を生かして、今後も各自のクラブでのロータリーライフを楽しまれん事を祈ります。 又、地区委員として残られた方、新たに地区委員に加わられた方に於かれましては、松本ガバナーの方針をよく理解し、RI2660地区の充実・発展のために更なる努力をお願いする次第でございます。ありがとうございました。

地区ガバナー指名委員会

委員長	横山 守雄 (大阪中央RC)
委員	宮田 宏章 (大阪北RC)
委員	神崎 茂 (大阪西RC)
委員	岩田 宙造 (大阪南RC)
委員	新谷 秀一 (池田くれはRC)

実施状況及びコメント

ガバナー月信9月号において、2012-2013年度ガバナー候補者の推薦を地区内全クラブに対して依頼致しましたが、締切り期日までにお申し出がありませんでした。

従いまして、当委員会は国際ロータリー細則第13条、及び当地区ガバナー指名委員会の規約に基づき、2010年6月3日に開催されました委員会で慎重審議の結果、全員一致をもって、大阪中之島ロータリークラブ会員、高島凱夫君をガバナー・ノミネー候補者として推薦することに決定致しました。

ガバナー指名委員会の決定に基づき、大谷 透ガバナーは高島凱夫君を2012-2013年度ガバナーとして指名宣言されました。委員会の皆様のご協力に感謝申し上げご報告とさせていただきます。

意義ある業績賞委員会

委員長 横山 守雄（大阪中央RC）
委員 岩田 宙造（大阪南RC）
委員 新谷 秀一（池田くれはRC）

実施状況及びコメント

ロータリークラブの活動の中で、社会的に有意義で、かつ卓越した活動に対して、R I会長は「意義ある業績賞」を地区内の一つのクラブに贈呈し、地区大会で表彰します。当委員会はその受賞該当クラブを選考し、大谷 透ガバナーに報告することがその役目となります。

本年度、当地区では5クラブが本賞にチャレンジされ、申請が行われました。その中で、東大阪東ロータリークラブが実施されました「よろず相談室」の活動は、R Iが定める本賞の基準を満たし、受賞に最も相応しいクラブ・プロジェクトと当委員会で判断し、大谷 透ガバナーへその旨ご報告致しました。

本プロジェクトには、東大阪東ロータリークラブの会員のほぼ全員の方が参加され、各会員のそれぞれの専門的知識や経験を生かして、地域社会の人々の多岐にわたる、いろいろな相談事に会員が対応するというロータリーならではの特筆すべき奉仕活動でありました。このようなロータリー活動は、今後、他のロータリークラブにとってもお手本となるような社会奉仕、及び職業奉仕活動であり、賞賛に値するものであります。

地区研修委員会

リーダー	戸田 孝 (八尾RC)
サブリーダー	井上 暎夫 (千里RC)
サブリーダー	神崎 茂 (大阪西RC)
サブリーダー	横山 守雄 (大阪中央RC)
委員	金森 市造 (くずはRC)
委員	三木 優 (大阪イブニングRC)
委員	矢野 巖 (大阪大淀RC)
委員	西上 博幸 (吹田江坂RC)
委員	宮里 唯子 (茨木西RC)
委員	畑田 耕一 (豊中RC)
委員	木村 芳樹 (大阪南RC)

実施状況及びコメント

- A, 1. 各クラブに研修委員会の設置を；①研修リーダーを委嘱、②研修委員会の役割、③研修のための教材の準備、④地区からの支援などで会員研修の実を上げる。
2. クラブ研修の受講者；①新会員-ロータリーの基本知識、ロータリーの綱領、クラブの歴史や、活動方針、目的などについて定期的研修。 ②入会5年未満の会員—配置された委員会の活動目標や各分野の実践について研修を受ける。

B, 地区研修会への参加 ①PETS (クラブ会長エレクト研修セミナー) で地区研修委員・神崎PGから「クラブ会長の役割」について講演。②地区協議会で戸田PGの「無償の行為がロータリーの素晴らしさ」など担当PGによる講演があり、③地区チーム研修セミナーで担当パストガバナーと地区委員長から説明があり、各クラブ会員に新しい知識と楽しいクラブ運営が齎されたであろう。

研修のための教材資料；各クラブで「Rotary Website」から「会員研修」に関する(日本語版)を活用していただきたい。

その他の特記事項

地区研修委員・畑田耕一氏(豊中RC)を中心にして、「ロータリーの心と実践」が完成しました。クラブ会員に広範なロータリー知識の啓発と、理解を深めるに相応しい書を贈って頂いたご貢献に、心から敬意と感謝を捧げたいと存じます。

一年間を振り返って

毎月開催される研修委員会に多忙な大谷ガバナー、研修委員の皆さんにご参加いただき、ロータリー研修に関する諸問題について意見を交わし、①地区チーム研修セミナー、②会長エレクト研修セミナー、③地区協議会 の開催に尽力されたことに感謝。

クラブ奉仕部門

2600地区クラブ奉仕・ 拡大増強委員会

委員長	松川 雅典 (新大阪RC)
副委員長	常国 克輔 (大阪城北RC)
副委員長	西村 俊彦 (東大阪みどりRC)
委員	川上 善司 (大阪平野RC)
委員	安田千恵子 (大阪柏原RC)
委員	安養寺敏彦 (交野RC)
委員	松尾 浩一 (大阪南RC)
委員	堀 隆 (大阪東RC)
委員	松田 清司 (大阪東南RC)

実施状況及びコメント

各クラブの増強に対する意識改革を促すために、次年度に入る前の2009年5月30日(土)にYMCA会館にて「会長の熱意で会員は増える」とのテーマで、会員増強に成功した名古屋東南ロータリークラブから伊藤秀雄氏をお招きして成功体験の秘訣をお聞きした。そしてその後下記の具体的な事例を設定してのバズセッションを行いました。

事例研究 (2600地区会員増強セミナー)

当ロータリークラブは、設立から20年を経過した。過去20年間で最も会員数が多かった時期は平成2年ごろで60名まで達したがその後会員数が減少し、今では30名を割り込む事態になっている。

歴代会長は会員増強を方針とし、会員増強委員会も組織されているが、成果は上がっていない。歴代会長は女性会員の獲得も方針として打ち出されるが古い会員数名が反対意見を表明しており、推薦するのが憚られる。また折角入会した会員が3年間持たずに辞めて行く。

さて貴方は次期会長および増強委員長です。あなたならどうしますか。

その他

全国会員増強委員長セミナー

地区委員研修セミナー (PETを兼ねる)

部門別協議会

地区協議会クラブ奉仕部門分科会

その他特記事項

本年度は最終の引き継ぎ会を含めて6回の委員会を開催しました。

一年間を振り返って

増強セミナーにて感動的な話を聞いて、各会長・増強委員長はその場はその気になられるが、各クラブに戻ると次第にその熱がさめて中々行動に移られません。その点が一番問題であり課題であると思います。

広報委員会

委員長	中島 武	(大阪堂島RC)
委員	源本 将人	(くずは)
委員	濱田 多喜男	(大阪うつぼ)
委員	砂川 秀雄	(大阪西北)
委員	片山 一步	(大阪住之江)
委員	上田 克己	(大阪)
委員	木村 芳樹	(大阪南)

実施状況及びコメント

今期は思い切った広報活動をするためにRI 50選に選ばれた広報を実践しました。

1. 新聞…産経新聞に1年間毎週「2660地区の元気人」としてユニークな生き方をされた方々を40回連載しました。
2. インターネット…産経関西（産経新聞大阪本社公式ニュースサイト）に2660地区のロゴを作り新聞掲載された記事を毎週連載しました。
3. ラジオ…ラジオ大阪に4月～5月毎週約8分間を8回放送しました。
4. 小冊子…新聞掲載されたロータリアン40名を編集して2660地区の全会員に配布するため4000冊を印刷しました。

その他特記事項

産経新聞社の絶大なるご協力と大谷ガバナー、四宮代表幹事のご理解を頂きまた、RI補助金のおかげをもちまして無事完了いたしました。

一年間を振り返って

産経新聞社の記者と二人でロータリアン取材させていただいて改めて素晴らしいロータリアンが沢山おられることを知りロータリークラブの魅力を知りました。

職業奉仕部門

職業奉仕委員会

委員長	中嶋 進治	(大阪城東RC)
副委員長	上田 耕司	(大阪大手前RC)
委員	鈴木 洋	(八尾東RC)
委員	長崎 弘芳	(大東中央RC)
委員	若林 尚史	(くずはRC)
委員	岸本 隆之	(豊中千里RC)
委員	佐野 元英	(大阪平野RC)
委員	生駒 俊雄	(高槻RC)

実施状況及びコメント

本年度の委員会活動方針を「実践する職業奉仕」としました。職業奉仕は、ロータリーの真髄というべきものです。又、職業奉仕は、各ロータリアンが、日常生活の中で、実践するものです。この職業奉仕の原点ともいうべき考え方を地区委員会の活動方針として、改めて、地区のロータリアンに意識して頂こうとしました。

1 実施状況

① 第1回職業奉仕委員長会議 2009年8月29日

神崎茂パストガバナーの講演「ロータリーの心、職業奉仕」
畑田耕一前地区職業奉仕委員長の講演「職業奉仕と出前授業」
アンケートに基づき各クラブからの事業計画発表

② 第2回職業奉仕委員長会議 2010年3月27日

アンケートに基づき各クラブからの事業実施報告

この2回の委員長会議において、他のクラブが、職業奉仕をどのように考えて、どのような事業を展開しているのか、経験交流により各クラブの職業奉仕の意識を高めることを目的としました。所期の目的を達したように思います。

③ 小冊子「ロータリーの真髄—職業奉仕の心」の作成と、全会員に配布

昨年度、ガバナー月信に掲載されたパストガバナー等の執筆による「ロータリーの真髄」を、小冊子として作成して地区のメンバー全員に配布し、ロータリーの職業奉仕理念を考えてもらう契機にしました。これも所期の目的を達したように思います。

④ 出前授業の推進

ここ数年地区委員会が推奨している「出前授業」を本年度も推進しました。実施するクラブが相当数増えていることが、アンケートで確認されています。

⑤ 地区協議会 職業奉仕分科会 2010年4月24日

大幸薬品工業の代表取締役であり、吹田ロータリークラブの会員でもある柴田仁氏による講演「企業の繁栄と社会的な使命」を実施しました。日常の中で、いかに職業奉仕を实

践し、企業の繁栄に結び付けていくかを現実の事例で職業奉仕委員長に考えて頂けたと思います。

その他特記事項

特に、職業奉仕は、日常生活の中で実践していくので、継続性と、普遍性があると思います。従って、地区委員会では、各クラブにアンケートを実施し、委員長会議などで、経験交流を活用して、より有意義な職業奉仕事業が展開できるようにする必要があると思います。

一年間を振り返って

この1年間、地区委員会をご指導いただいた神崎茂パストガバナーや前委員長で研修委員の畑田耕一氏、又、地区委員の皆様にご充実した委員会活動を送ることができたことをここに感謝いたします。

社会奉仕部門

社会奉仕委員会

委員長	片山 勉	(大阪東RC)
副委員長	表 寛治	(池田くれはRC)
副委員長	高田 知彦	(大阪リバーサイトRC)
副委員長	森川 嘉夫留	(摂津RC)
委員	川上 大雄	(大阪ユニバーサルシティRC)
委員	初木 賢司	(くずはRC)
委員	土井 孝夫	(大阪東RC)
委員	西宮 富夫	(箕面RC)
委員	萬年 成泰	(千里RC)

実施状況及びコメント

○第一回 クラブ社会奉仕委員長会議

2009年9月12日(土) 於:薬業年金会館

大谷G・岡部GN出席のもと、大谷Gから「地域のニーズを把握することが重要」との挨拶に始まり、地区社会奉仕委員会の方針及び地区補助金についての説明会として開催。

・薬物乱用防止について

大阪府健康福祉部薬務課麻薬毒劇物グループ

課長補佐 中田 裕紀

・献血の現状について

大阪府赤十字血液センター

献血部長 織田 美夫

・交通安全対策の活動について

大阪府都市交通整備部交通進路室交通環境課

課長補佐 芦谷 栄樹

・環境問題について

地区社会奉仕委員会 委員 初木 賢司

・地区補助金について

地区社会奉仕委員会 委員長 片山 勉

○第二回 クラブ社会奉仕委員長会議

2010年2月20日(土) 於:薬業年金会館

大谷G・岡部GN・岩田PG出席のもと、大谷Gの挨拶に始まり、第一部は「子供達の未来のために」をテーマの講演会、第二部はIM毎のテーブルにわかれバズ・セッション方式による意見交換とその発表を行う。

・第一部 講演会(社会福祉法人)海の子学園:児童養護施設大阪市立「入船寮」

城村 威男様による演題「錨を降ろす港のない子供達」

子供達が求めているのは、物質的なものではなく心のふれあい・温かさであることについて、経験にもとづいた講話であった。

・第二部 バズセッション

各クラブ社会奉仕委員長から、疑問やプロジェクトの効果をより高める為の意見が多く述べられ、地区社会奉仕委員会にとっても参考となった。

○地区大会展示場パネル出展

地区社会奉仕委員会としては初めて地区大会会場に委員会活動を紹介する展示パネルを出展。

○「春の全国交通安全運動」キャンペーンに参加

2010年4月6日（火） 於:大阪城公園 大手門前広場

主催：大阪府交通対策協議会（会長 大阪府知事）

○おおさか環境賞

当委員会では、大阪府の「豊かな環境づくり大阪府民会議（通称 なにわエコ会議）」に参画、2010年4月に各クラブ宛に平成22年度大阪府環境保全活動補助事業の募集について案内する。

○ダメ・ゼッタイ運動

2010年4月6日（火） 於:プリムローズ大阪

大阪府健康医療部薬務課麻薬劇毒物グループ主催の「ダメ・ゼッタイ普及運動」に参加。

○前年度の引き継ぎ事項「過年度のクラブ社会奉仕活動事例集」を仕上げ10月末に各クラブに2冊ずつ配布いたしました。

その他特記事項

○クラブ実施のプロジェクトに参加

2009年12月5日（土） 於：ユニバーサルスタジオ・ジャパン

主催するRCとその主旨に賛同する3RCが合同で実施する「恵まれない児童達とのロータリークリスマス イン USJ」プロジェクトに地区社会奉仕委員4名が参加し、行動することによって学ぶ重要性を再確認した。

○献血運動支援の為「バンダナ」を制作

前々年度に制作したバンダナの在庫がなくなり、各クラブから献血運動促進の為、引き続きバンダナの希望があり、1,000枚制作・支援しました。

一年間を振り返って

○地球温暖化の影響によるものか例年以上に自然災害による義援金・支援金（兵庫西・北部豪雨災害、台湾南部台風8号被害、ハイチ大地震、宮崎県口蹄疫被害）への協力を各クラブにお願いし、貴重な浄財をご寄付頂きました。

○昨年度に引き続き、奉仕活動の主体は各クラブ・各ロータリアンであり、地区委員会としては各クラブの事業がスムーズに、かつより効果的に実現できる様、情報の提供・相談・卓話等を実行しました。

お世話になりました関係各位に感謝申し上げます。

新世代合同委員長会議 危機管理委員会

委員長	吉川 謹司 (東大阪東RC)
副委員長	松本 新太郎 (八尾RC)
委員	陶 柳之介 (箕面RC)
委員	津本 清次 (大阪淀川RC)
委員	田中 康正 (八尾RC)
委員	岡田 俊作 (大阪本町RC)
委員	山下 勝弘 (東大阪RC)
委員	吉川 邦英 (大阪RC)
委員	村橋 義晃 (大阪中之島RC)
委員	中島 武 (大阪堂島RC)
委員	菅沼 清高
委員	岩本 洋子 (大阪そねざきRC)

今年度を振り返ってまず、2007年10月に創立された大阪ネクストRCが順調な歩みを続けている事を、当委員会としても喜びたいと思います。同クラブの活動は、会員数が減少傾向にある今日の厳しい環境に於いて、時代を乗り越えるクラブ運営として注目を集めているようです。

昨年12月には、吹田江坂RCを提唱クラブとして、関西大学ローターアクトクラブの認証伝達式が行われました。新世代のリーダー育成を目指す、日本では数少ない大学内のローターアクトクラブ誕生として、これもまた注目の的であり、今後の活躍を心から願っております。

本年4月17日には、新世代部門ワークショップが開催されました。席上、来賓としてご出席いただいたRIアジア担当エリアコーディネーターの海沼美智子先生からお話がありましたが、先生はまず、今日の奉仕活動の最重要課題が青少年のリーダーシップ育成であることを指摘され、青少年プログラムのあり方について説明されました。さらに情報を共有することの大切さを語られ、危機管理委員会を始めとした各委員会の垣根を出来るだけ低くし、風通しを良くして、情報交換を今まで以上に活発に行うよう説かれました。

今後の活動を通して得られた成果と、新たに見えてきた課題とが、青少年奉仕部門の今後の活動に生かされることを期待いたします。

青少年活動委員会

委員長	陶 柳之介 (箕面RC)
副委員長	末田 良介 (大阪そねざきRC)
副委員長	岡本 啓吾 (大阪中之島RC)
委員	新庄 幸一 (枚方RC)
委員	丸尾 照二 (大阪御堂筋RC)
委員	餅野 法善 (大阪なにわRC)
委員	南 樹一 (大阪南西RC)
委員	荒石 義一郎 (大阪咲洲RC)
委員	小川 泰彦 (大阪梅田RC)
委員	角本 浩一 (大阪城北RC)
委員	井上 嗣仁 (大阪中央RC)
委員	辻本 容治 (寝屋川RC)
委員	金馬 隆仁 (吹田江坂RC)
委員	二上 寛弘 (大阪阿倍野RC)
委員	植田 昌克 (大阪北RC)
委員	桑田 日出男 (大阪難波RC)

実施状況及びコメント

1. ライラ (Rotary Youth Leadership Awards : 青少年指導者養成プログラム)

(1) 初級ライラ ホストクラブ：大阪RC

(秋のライラ) 日 時：2009年10月10日 (土) -12 (月)

場 所：関西大学 高槻キャンパス

参加数：62名

登録数：606名

(2) 上級ライラ ホストクラブ：大阪梅田東RC

プレキャンプ 日 時：2009年9月12日 (土)

場 所：ガバナー事務所 会議室

本キャンプ 日 時：2009年10月10日 (土) -12 (月)

場 所：関西大学 高槻キャンパス

参加数：10名

(3) 初級ライラ ホストクラブ：大阪城北RC

(春のライラ) 日 時：2009年5月2日 (日) -4日 (火)

場 所：大阪府立青少年海洋センター

参加数：102名

登録数：492名

2. 少年少女ニコニコキャンプ

ホストクラブ：大阪御堂筋RC

日 時：2009年7月31日（金）－8月1日（日）

場 所：大阪府立青少年海洋センター

参加数：80名

登録数：375名

3. 正副委員長会議

(1) 第1回正副委員長会議

ホストクラブ：大阪阿倍野RC

日 時：2009年10月10日（土）

場 所：関西大学千里山キャンパス第3学舎

参加数：80名

4. 新世代部門ワークショップ

新世代部門：4委員会（青少年活動・青少年交換・ローターアクト・インターアクト）合同のワークショップを当地区にて初めて企画し開催しました。

当日はRI青少年奉仕支援グループ・アジア担当エリアコーディネーター海沼美智子先生にRIと青少年プログラムについて感銘深いお話を伺い、各部門がお互いに協力し合い、cross promotion を発揮し、ロータリーの新世代部門の活動を進展させてゆくことが大切だと学びました。また、新世代の若者（ローターアクター、ROTEX、インターアクター）から直接活動報告をしていただき、さらにパネルディスカッションでは海沼先生にモデレートして頂き、大変内容の濃いものになりました。

5. 国際ライラ・ローターアクト大会への派遣

今年度は該当者が無く、派遣者は0名でした。

特記事項

昨年に引き続き、関西大学と連携してライラを実施、また今年度初めて新世代部門4委員会合同でのワークショップを開催しました。

一年を振り返って

各行事のホストクラブの皆さま、そして、登録にご協力くださいましたロータリアンの皆さまに感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

ローターアクト委員会

委員長	津本	清次	(大阪淀川RC)
副委員長	山内	康俊	(大阪西RC)
副委員長	池田	佳弘	(大阪梅田RC)
副委員長	梅澤	喜八郎	(東大阪西RC)
副委員長	山村	安徳	(東大阪東RC)
副委員長	川上	富清	(大阪住吉RC)
委員	福室	忠正	(吹田RC)
委員	西村	晋	(池田くれはRC)
委員	清水	雄一郎	(大阪北RC)
委員	中村	剛	(大阪南RC)
委員	永田	大介	(池田RC)
委員	辻本	一義	(東大阪RC)

当委員会は、地区ローターアクトの活動を管理監督するのを任務としており、12名の委員によって構成している委員会により1年を通じて活動を行った結果、大過なく予定通り会議、行事をこなすことができたと考えられます。

行った行事の項目を列挙すると次の通りです。

第1回地区献血、連絡協議会(7月19日)、全国統一アクトの日(9月13日)、海外研修(RID3400. インドネシア 10月31日-11月4日)、第2回地区献血、連絡協議会(2月21日)、世界RAC DAY(3月7日)、第22回全国ローターアクト研修会(RID2760.愛知 3月13-14日)、新旧理事役員研修会(4月18日)、地区年次大会(5月16日)、リーダーシップフォーラム・新人研修会(6月6日)。

又、青少年活動委員会の行事のニコニコキャンプへの参加(7月31-8月2日)、秋のライラ(10月10-12日)、春のライラ(5月2日-4日)、その他、他地区との行事は2640・2660地区交流会(11月29日)、四地区合同情報交換交流会(1月7日)、その他、創立35周年記念式典が寝屋川RAC、大阪西南RAC、創立30周年記念式典が大阪天満橋RAC、創立25周年記念例会が枚方RACで、それぞれ挙行されました。又2660地区で初めての大学ローターアクトクラブが関西大学に吹田江坂ロータリークラブの提唱で20番目のクラブとして発足しました。

又会議は、地区役員会は毎月第2・第4木曜日、北・中・南の各ゾーン会長会が毎月1回ガバナー事務所で予定通り行われました。ゾーン行事も北・中・南ゾーンと無事行いました。

今年度はロータリーの地区大会でローターアクトの活動を紹介する場が2日間にわたり展示できました。広くロータリーにローターアクトの活動が紹介できたと思います。いずれの行事、会議とも活発に実行され、ローターアクターにとって多くの経験を積んだ有意義な一年でありました。

インターアクト委員会

委員長	田中	康正	(八尾RC)
副委員長	谷野	清孝	(大阪阪南RC)
副委員長	廣内	謙	(大阪南RC)
委員	奥田	吾朗	(大阪RC)
委員	田川	和見	(大東RC)
委員	若林	嘉寛	(大阪住吉RC)

今年度インターアクト委員会では We can just do it! Enjoy! に沿って、地域社会への奉仕と国際理解を深める活動を行いました。

活動状況

1. 韓国海外研修

新型インフルエンザの影響の為、中止になりました。

2. インターアクトクラブ年次大会

9月27日に清風学園中学校・高等学校近くのホテル アウィーナ大阪にて「笑顔で結ぶ国際交流」と題して、インターアクト年次大会が開催されました。大谷ガバナーをはじめ関係者など総勢126名が参加しました。各校インターアクター代表から地域を中心とした清掃活動、献血運動、盲導犬協会への募金活動を行いました。そして、今回の年次大会のテーマ「笑顔で結ぶ国際交流」として落語家の桂 あさ吉さんを講師に招きました。英語落語で期待通りに、あさ吉さんは年次大会を盛り上げてくださいました。続いて、各チームごとに発表者を選び即席の英語落語に挑戦し、参加者の前で発表しました。各生徒の短時間での吸収力には驚かされるばかりでした。

ホスト校の清風学園には、日本の伝統文化を尊重する校風があり、落語という伝統芸能と英語の結びつきはとても魅力的に感じられ、落語という伝統文化を通して、笑いという普遍性に至りたいという願いが込められていました。インターアクター達にも大変良い経験になった事でしょう。

3. 活動誌「SCRUM #35」発行

IAの活動誌SCRUM #35が2010年3月に発行されました。1年間の様々な活動状況を43ページにまとめたものです。特にインターアクター達の想いが込められた貴重な報告誌です。担当校は四天王寺高等学校・中学校でまとめていただきました。

4. 新入生歓迎会 (08-09年度)

前年度の新入生歓迎会が新型インフルエンザの流行の為延期となっておりましたので、延期分の新入生歓迎会が2009年11月15日に大畑山青少年野外活動センター（アクトランドYAO）にて開催されました。記念植樹（各学校1本ずつ）、飯盒炊爨（カレー作り）、クラフト作り（木工細工）と盛りだくさんの楽しい活動が行われ、総勢85名みんなが一つになれたひと時でした。特にカレー作りは、インターアクターの生徒、一人ひとりが役割分担をして出来上がったカレーは最高に美味しく感じられ、新入生のインターアクターからも先輩や他校の生徒と打ち解け合い、素晴らしい第一歩をスタート出来たと確信した一日でした。

5. 新入生歓迎会 (09-10年度)

今年度2度目の新入生歓迎会は、2010年6月6日、府立羽衣青少年センターにて開催されました。インターアクター、顧問先生、ロータリアン総勢100名が参加し、午前中は班に分かれてオリエンテーリング、その後バーベキューを楽しみました。当日は快晴で、絶好のバーベキュー日和でした。初めは何となくよそよそしかった他校の生徒同士が、交流を深めていくうちに笑顔も見られ、打ち解け合う姿を見て、インターアクト活動を進めて行く事の大切さを強く感じました。ロータリアンは青少年の手本である、と自覚し、行動しなければ、と決意を新たにしました。

その他の特記事項

前年度後半からの新型インフルエンザの影響で最大の事業である海外研修が中止となったことは非常に残念でした。しかし、その他の実施事業において、充実した活動が出来たと思えます。大谷ガバナー、吉川青少年部門担当顧問、地区委員の皆さまのご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

青少年交換委員会

委員長	岡田	俊作	(大阪本町RC)
副委員長	泉	博朗	(大阪住吉RC)
委員	吉野	正史	(大阪天満橋RC)
委員	角谷	真枝	(茨木西RC)
委員	田邊	和宏	(大阪西南RC)
委員	金本	恒二郎	(大阪天王寺RC)
委員	小林	博隆	(大阪梅田RC)
委員	野村	正勝	(箕面中央RC)
委員	濱谷	和也	(東大阪RC)
委員	森本	章裕	(大阪天満橋RC)

実施状況及びコメント

Rotary Serviceの中でThe Most Wonderful Programとして、派遣・受入れ共に各7名の長期交換を実施しました。派遣候補学生に対しては、選考会・プログラム説明を含めて9回のオリエンテーションを行い、親善大使としての使命と目的を解説。来日学生には、来日早々の地区オリエンテーションを実施し、日本や日本文化を学ぶ為の一環として次の行事を行いました。

○9月：来日から1ヶ月经った頃の3地区合同（D2660, D2640, D2680）の一泊オリエンテーション（高野山・蓮花院）で、悩みや問題点の確認と対処の検討。

○3月：白馬でのスキー研修旅行には、派遣候補生も加わりスキー体験と学生相互の親睦の向上。

○4月：広島研修旅行（千羽鶴奉納・平和記念館見学）を通じ、戦争の悲惨さと平和の尊さを学ぶ。
（研修旅行には、D2640, D2680の来日学生・派遣候補生・ROTEX・青少年交換委員も参加）

○4月：高槻西RC主催の神峯山寺での体験座禅会・お茶会への参加。

○ROTEX主催のクリスマス会（12月）・日本文化体験会（2月）日本語スピーチコンテスト（5月）

以上は、行事や企画として特筆したのですが、ホームステイ先の家庭や通学する高校での先生や生徒達との日々の生活の中から日本語や文化の学習を通じて、互いの理解を深め合う事が重要です。それがロータリーの究極目的である国際理解・国際平和への一歩となるものと期待しています。それをサポートするのが委員会活動の使命と位置付けています。

その他特記事項

D2660がホスト地区となって、第15回ロータリー日本青少年交換研究会を5月15日（土）－16日（日）の両日大阪YMCA国際文化センターに於いて実施しました。本年4月のRIの規定審議会で、「新世代奉仕」が四大奉仕に加え第五の奉仕になる事が採択されました。青少年交換のみならずインターアクト・ローターアクト・ライラが一体となって統合的に進む方向を示す

重要な研究会になりました。全国34地区から約250名の新世代部門関係ロータリアンの参加を得た大変有意義な研究会を成功裏に終える事が出来ました。

一年間を振り返って

本年度は、7名の来日学生の内2名が早期帰国となりました。ここ数年のインターネットの普及等も有り、深夜に出身国の友人や家族との交信に耽ってしまい日本での生活に馴染めない事や青少年交換プログラムでのルール違反が原因ですが、それ以前に日本へ来た意味と目的を理解していない学生の傾向が見られます。出身国での派遣前のオリエンテーション不足にも疑問を感じます。出身国への改善要求も必要とは思いますが、来日当初の当地区でのオリエンテーションの在り方や内容も再検討しなければならないと思います。交換して来日した学生も「わが子」と思えば乗り越えられる点多々ありますが、基本的なルールと来日の目的は、充分理解させる必要を感じます。亦、ドイツへ派遣した学生が早期帰国させられましたが、本人よりもホストファミリーの対応に異常な問題がありました。ホストファミリーの当たり外れの問題では困りますので、派遣先でのホストファミリー選定に十分な配慮を要請する必要があります。

諸問題を経験して多くの反省点も有りましたが、大変意義深いプログラムであるだけに、国内外の多くのロータリアンの理解と協力を得ると共に、派遣先の地区青少年交換委員との関係を密接にして、より良いプログラムにして行きたいと思います。

国際奉仕・WCS部門

国際奉仕・WCS委員会

委員長	戸田 和孝	(大阪東淀ちややまちRC)
副委員長	小林 澄子	(守口イブニングRC)
副委員長	古澤 照明	(豊中RC)
委員	石田 秀	(大阪西南RC)
委員	大藤 辰弘	(吹田西RC)
委員	栗原 大	(大阪フレンドRC)
委員	谷村 佳昭	(東大阪西RC)
委員	西邨 智雄	(香里園RC)
委員	吉田 政雄	(茨木RC)

実施状況及びコメント

委員会では、地区内各クラブの国際奉仕・WCS活動をサポートする役割を果たしました。地区委員長会議では、国際奉仕・WCSの概論、意義から、申請上の問題点に至るまで詳細に説明し、理解を深める一方、実際のプロジェクト報告にも力を入れ、各クラブの担当者のモチベーションを高める工夫を凝らしたつもりです。

今年度は、WFが早期に枯渇することが予想されたので、地区委員会による審査を前倒しで行い、7月早々にMGの申請書をRIに提出、WF枯渇後も、DDFで補うという手法で、WCS活動を幅広く展開しました。

また、地区委員会によるプロジェクトの掘り起こし～地区内各クラブへの連携の呼びかけ～複数クラブによるプロジェクトの実施 というモデルプランを企画、カンボジア・プロジェクトと名づけたこのプロジェクトに、地区内13のクラブが参加して、大きな成果をあげています。地区内のクラブで、独自にWCS活動を行ったクラブは、ほぼ9割に当たる77クラブに達し、おそらく全国でトップの活動成果をあげていると自負しています。

その他特記事項

次年度もWFの早期枯渇が予想されますので、早めの申請書提出を呼びかけています。また、他地区が、当地区のWCS活動の状況をヒアリングしに来られ、活発な意見交換を行いました。

一年間を振り返って

一定の成果が上がったと思いますが、地区内各クラブの会員レベルでは、国際奉仕・WCS活動に対する温度差があることも事実です。より多くの会員に、その意義を伝えることの重要性を感じています。

ロータリー財団部門

ロータリー財団委員会

委員長	福家 宏 (八尾中央RC)
委員	大竹洋一郎 (門真RC)
委員	吉川 邦英 (大阪RC)
委員	山下 勝弘 (東大阪RC)
委員	山口 勝之 (高槻東RC)

実施状況及びコメント

- 3/28 (土) PETSにてポリオ撲滅活動についてのプレゼンテーション実施
- 4/25 (土) 地区協議会にてロータリー財団情報の報告
- 7/1 (水) 東京にて ロータリー財団ゾーン・チーム会議に出席
- 7/2 (木) 東京にて ロータリー財団地域セミナーに出席
- 8/29 (土) 地区ロータリー財団セミナーにて新しいロータリー財団情報の報告
- 10/24 (土) クラブ財団委員長会議を主催 情報提供とディスカッションを実施
- 10月下旬～12月上旬 多数の関係委員長・委員が地区内クラブにて卓話の実施
- 2/9 (火) シェア会議開催 井上財団学友コーディネーター、大谷G、松本GE、岡部GNご出席のもと財団部門各委員長、国際奉仕WCS委員長、社会奉仕委員長らが集まり、2011-2012年度のDDF を人道的分野、教育的分野、寄贈分野の各々にどれだけの金額を配分するかが決定された。(詳細はG月信4月号に掲載)
- 2/26 (金)～2/27 (土) 地区大会においてポリオ撲滅のための「ロータリー2億ドルのチャレンジ」に関するパネル展示を行い、「END POLIO NOW」のピンとパンフレット配布を実施
- 3/16 (火) G補佐会議においてロータリー財団情報提供の機会を与えられた。
- 3/20 (土) PETSにてロータリー財団に関するプレゼンテーションを実施した。

その他特記事項

当地区から日本事務局に発した質問に端を発した地区補助金制度問題は、制度発足当初から日本事務局が解釈を完全に間違えたまま日本中の地区／ロータリアンにインフォメーションを続けてきたものであった。今年度末になってこのことが日本事務局から日本中に発信された。

一年間を振り返って

財団部門各委員長（情報増進、人道的補助金、奨学・学友、GSE）の努力とリーダーシップにより、各部門は円滑に運営され、効果的に職責が全うされたものと考えている。

財団情報・増進委員会

委員長	大竹 洋一郎 (門真RC)
副委員長	百済 洋一 (東大阪中央RC)
委員	長谷川 龍司 (豊中南RC)
委員	西田 末彦 (大阪中之島RC)
委員	鈴木 肇 (大阪船場RC)
委員	柏木 武生宜 (八尾RC)

一年を振り返って

ロータリー財団への寄付増進が役割の当委員会にとって、この一年は、リーマンショック以降の経済危機およびそれに伴う財団資産の毀損などアゲンストの風に悩まされた。財団の責任論や寄付への疑問投げかけに対して、次の点を強調した。

- ①運用に浮沈はつき物であり、10年スパンで見れば十分貢献している。
- ②寄付の使われ方、すなわち財団プログラムの実施状況と有用性の確認。

実施状況

- ・地区財団セミナー 2009年08月29日(土) 大阪YMCA
千里メープルRC高尾修会長に、毎年、会員一人当たり300ドル以上の年次寄付を続けられておられる秘訣をお話願った。
また、会議のフォローとして各クラブにロータリーカードの入会促進資料を送付した。
- ・クラブロータリー財団委員長会議 2009年10月24日(土) 大阪YMCA
各クラブのロータリー財団委員会の活動状況について事前アンケートを実施し、IM組別の寄付増進議論に役立てた。
- ・ロータリー財団月間 11月
財団活動の理解を深めてもらうため、要請のあったクラブで、卓話を実施。
- ・情報・増進委員会
地区行事の準備等に関する打合せを3回開催した。
- ・シェアー会議 (2010年2月)、財団人道的補助金委員会ならびに地区補助金審査会 (奇数月に開催) への出席

その他

引継ぎ資料として、当委員会の年間行事予定と注意ポイントを作成した。

財団奨学金・学友委員会

委員長	山下	勝弘	(東大阪RC)
副委員長	梅崎	道夫	(大阪城南RC)
委員	栢本	義臣	(吹田西RC)
委員	河内	幸枝	(吹田RC)
委員	道満	隆	(豊中-大阪国際空港RC)
委員	入船	禎三	(大阪東RC)
委員	北埜	登	(東大阪東RC)
委員	岡市	正規	(茨木東RC)
委員	三好	えり子	(大阪そねざきRC)
委員	牧尾	晴喜	(大阪ネクストRC)

実施状況及びコメント

前年度に選考しました2010-2011年度の国際親善奨学生候補者7名に対し、3回のオリエンテーションを実施しました。

第1回は候補者にロータリー及びロータリー財団についての情報提供、第2回は山本能楽堂さんにお世話になり能楽についてのレクチャー、第3回は候補者が派遣先でロータリアン等に向けてプレゼンテーションを行う際の予行演習を行うという内容でした。

このオリエンテーションの内容は、毎年変わっておりますが、大枠は同じ内容で進めてまいりました。

また、2011-2012年度に派遣される予定の国際親善奨学生候補者の選考も行いました。当委員会としましては8名を選考したかったのですが、最終的に合格した候補者は3名だけと極めてさびしい状況となってしまいました。

以上の通り、当委員会としての活動は、前年度と同じプログラムで行いました。

その他特記事項

今年度は、ロータリー平和フェローの応募が1名ありました。現在、ロータリー財団に申請中で合否は不明ですが、この応募をした方がロータリー平和フェローに選ばれますと、寺西悦子さんに続いて、当地区で2人目のロータリー平和フェローということになります。合格をお祈りいたします。

一年間を振り返って

頼りない委員長でしたが、福家財団委員長のご指導のもと、梅崎副委員長をはじめ、委員の皆さまのご尽力により、なんとか一年を過ごすことができました。

皆さまに感謝申し上げます。

研究グループ交換委員会

委員長	吉川 邦英 (大阪RC)
副委員長	吉崎 広江 (東大阪東RC)
副委員長	小野 佳彦 (大阪難波RC)
委員	岸上 憶則 (千里メイプルRC)
委員	米田 真 (豊中RC)
委員	田邊 司郎 (寝屋川RC)
委員	松崎 浩一 (大阪北RC)
委員	田中 義久 (大阪西RC)
委員	西野 博子 (大阪イブニングRC)

実施状況及びコメント

- (1) D5870 米国テキサス州オースティン地区との交換を以下のスケジュールで無事完了した。
受け入れ：2010年3月27日～4月23日
派遣：2010年4月23日～5月22日 (天候不順により1日延着)
- (2) 事業の円滑な推進の為、ほぼ毎月月例委員会を開催し、GSEについての理解を深めた。
- (3) 受け入れにあたっては、地区内の各IMブロックより受け入れ実行委員長及び副委員長クラブを選出し、受け入れ実行委員会4回やホストファミリーオリエンテーション等を開催。4週間の滞在期間中の適切なプログラム作りの指導調整や関係者への情報提供を実施した。
- (4) 派遣団員募集にあたってはパンフレットを作成し地区内各クラブに配布。また大阪市／大阪府にも事業案内を行ない7名の応募者を得た。レベルの高い応募者が多く結果として1名定員超の5名を選抜した。
- (5) 派遣団員のトレーニングにあたっては、アルムニ会の協力による数次にわたるプレゼンテーションの指導、RF /DDF補助金による語学研修、テキサスチーム受入れプログラムへの参加、推薦クラブの例会への出席等によるロータリー知識の習得。
例年以上に充実したトレーニングが実施出来た。
- (6) 直近のGSE派遣チームメンバーまたGSE委員会委員による地区内クラブでの卓話を積極的に行ない、GSE及びロータリー財団理解の増進に努めた。

- (7) 2010-2012年度のGSE活動のパートナーとしてD3220スリランカとの交換を合意することができた。

その他特記事項

- (1) テキサスとの交換はメンバー1名増となったがDDFの使用も含め当地区また相手地区の理解と協力により円滑に進めることができた。
- (2) D3220スリランカとの交換は相手地区が追加GSEチームとなる為、相手チームの旅費相当額として当地区DDFより13,000ドルを寄贈するという初めてのケースであったが、関係各位の理解と指導により無事手続きを完了することができた。
- (3) 受け入れ／派遣それぞれ別個のメーリングリストを立ち上げ関係者間での連絡や情報共有に活用した。まだ完全ではないものの従来よりも円滑なコミュニケーションが実現できたと思う。

一年間を振り返って

- (1) 大谷ガバナーのとても熱心なご指導・ご支援そして事業そのものへのご参加が本当に有難かったです。
- (2) ロータリー財団・GSEに精通されておられる佐藤さんに派遣チーム団長を受けていただき本当に心強かったです。有難うございました。
- (3) 公私それぞれに色々な事情があり大変であったと思いますが、特に2009-2010年度のGSE委員会メンバーは全員が最後まで事業推進に尽力下さいました。委員長として厚く御礼を申し上げます。

財団法人道的補助金委員会

委員長	山口 勝之 (高槻東RC)
副委員長	太田 敏一 (大阪西南RC)
副委員長	家村 武志 (吹田西RC)
委員	辻川 功一 (大阪中央RC)
委員	山本 雅昭 (大阪北RC)
委員	樋口 信治 (大阪RC)
委員	五味 千秋 (大阪心斎橋RC)
委員	和氣 主 (大阪北梅田RC)
委員	川田 隆 (八尾RC)

実施状況及びコメント

2009年7月から2010年5月まで毎奇数月第3木曜日に委員会を開催（そのうち、7月と1月は国際奉仕WCS委員会と共同開催）し、また、最終回を除き、委員会に引き続き地区補助金審査会を開催した。

当委員会における主要な任務は、人道的補助金の適正な使用を支援することであるが、今年度世界社会奉仕のための地区財団活動資金（DDF）に関しては、MGに併用したプロジェクト9件（補助金合計38,150ドル）及びMGを使用しないプロジェクト4件（補助金合計42,829ドル）を承認し、地区補助金（DSG#70068）に関してはプロジェクト26件の申請があり、このうち23件（補助金合計3,578,100円）を承認（3件について不承認）した。

本年度世界社会奉仕のためのDDF予算が65,000ドル、地区補助金のためのDDF予算が40,000ドル（TRFからは、1ドル90円換算で360万円が振り込まれた）であったから、前者については、予算額を大幅に超えて使用し、後者については、ほぼ100%使用したことになり、当地区においては、本年度も人道的補助金を使用した活動が活発に行われたことを示している。また、プロジェクト実施後の報告も順調になされており、今のところ格別問題はない。

その他特記事項

本年度は、前年度に引き続き世界的な経済不況でロータリー財団（TRF）の財政状況が悪化していることから、2009年9月にMGの財源であるWFの予算が枯渇した。しかし、このことは当初から予想され各クラブに事前に周知を図っていたことから、大きな混乱は生じなかった。また、DSGについても、本年度から、年度当初にTRFに対し詳細な授与計画の提出を求められるようになったため、各クラブの企画立案が早まり、2009年11月に予算を充足するだけの申請があった。

米山奨学部門

米山奨学委員会

委員長	村橋	義晃	(大阪中之島RC)
副委員長	磯田	郁子	(大阪東淀ちややまちRC)
委員	米田	猛	(大阪西RC)
委員	武島	秀吉	(大阪御堂筋RC)
委員	西谷	雅之	(大阪城南RC)
委員	大西	寛治	(大東RC)
委員	中川	和之	(大阪船場RC)
委員	小山	義之	(大阪鶴見RC)
委員	和田	武彦	(大阪梅田東RC)
委員	吉田	悦治	(大阪大淀RC)
委員	有竹	正巳	(大阪東RC)
委員	田中	真人	(大阪北RC)

実施状況及びコメント

米山奨学委員会の活動プログラムは、7月を年初とするロータリー年度とは多少異なり、年末年始の新規採用奨学生の選考に始まり、新規奨学生と世話クラブのカウンセラーとのオリエンテーション、そして、奨学終了生の歓送会に至る期間中に様々な年間活動プログラムがあります。

今年度は年間活動計画の全てを完了し、次年度に向け新規採用奨学生35名、継続奨学生5名の計40名を地区内の40クラブに世話クラブを御引受け頂きました。

又、地区内の活動において、米山奨学事業創設の原点再考と理解を深めるための活動に重点をおいて、寄付の増進を御願いしてまいりました。

2660地区における過去からの寄付金納入累計額は、30億円を突破し、全国で第2位となり、又、今年度の7月～5月の寄付金納付額においても全国第2位となる6,933万円の寄付を頂きました。

これらの実績は、当地区ロータリアンの米山奨学事業に対する深い御理解と高い意識の表れであると思います。

一年間を振り返って

米山奨学事業の活動を通じて、様々な場面で地区役員の方々や大勢のロータリアン、米山学友と交流する機会に恵まれました、ある時には戴いた御意見に啓発を受け、又、何気なく掛けて戴いた御言葉に励まされ、そして、一緒に活動した地区米山奨学委員やガバナー事務所諸氏の御協力を得て、計画した全ての活動を無事に終えることが出来ました。

御協力を頂いた方々に感謝と御礼を申し上げ、米山奨学事業の益々の発展を祈念致しております。

「ありがとうございました」

地区大会実行委員会

委員長 丹羽 健二 (大阪西南RC)
大会幹事 木村 雅彦 (大阪西南RC)

実施状況及びコメント

本年度地区大会は、第1日(2010年2月26日 於リーガロイヤルホテル大阪) 第2日(2月27日 於大阪国際会議場)とも無事に盛会裡に終える事が出来ました。

地区内各クラブに全員登録をお願いし、また全国各地から、数多くのご来賓ロータリアンにご出席をいただく事が出来ました。そして、各地区委員会に友愛の広場での活動紹介にご協力いただきました事に心から感謝いたしております。

R I 会長代理として、ピチャイ・ラタクル元R I 会長をお迎えし、感銘深いスピーチを頂戴できました事も幸運であったと感謝いたしております。

2660地区で初めての試みとして、第1日目に、米山功労者メジャードナー並びにロータリー財団大口寄付者の方々をご招待して、顕彰昼食会を開催いたしましたし、第2日目の本会議中に、米山学友の金守基氏によります学友ホームカミング報告をしていただきましたが、いずれも好評であったと思っております。

その他特記事項

記録(冊子とDVD併用)につきましては、6月に完成し、各クラブ関係者の皆様に発送いたしました。

ロータリーの友委員会

実施状況

I (1) ロータリーの友の紹介文の作成と配布

先ずロータリーの友を会員の皆様に読んでいただくために、事前に送付されたロータリーの友につき重要で興味ある標題の記事を精読して簡潔にまとめて紹介文を作成し、先ず私が所属するクラブの第1例会に友誌に挟んで配布し、当日の例会で約3分間でその紹介文を口頭で述べて読んでいただくようお願いした。

(2) 地区の他のクラブに対しては、ガバナー事務所を通じてメールで送信していただくことも考えたが、ガバナー事務所や各クラブの配布の手数を考えると大変と思い控えた。

(3) 地区委員の他の任務である地区活動状況の友事務所への連絡、報告については、地区内の活動状況を把握する方法がわからず無為に終わってしまった。併しロータリーの友を注意深く読んでみると、殆ど毎月と言ってよいほど地区内の諸々のクラブから奉仕活動の報告、広報活動についての報告がなされていて、ロータリーの友を見てはじめて地区内の色々な活動状況を知り得た。私が取材して報告するよりも各クラブから直接ロータリーの友事務所へ投稿されているのであると思われるが、それが実際にも妥当な方法であると思われる。この面でロータリーの友の委員の役割は特に通信手段の発達した今日余り重要ではないのではないかとと思われる。

II ロータリーの友、雑誌月間に因んでの卓話

4月の雑誌月間に因んで私の所属しているクラブを含めて4クラブで卓話を頼まれてお引受けした。卓話の内容は雑誌月間が設けられた目的、ロータリーの友が出来たいきさつ、ロータリーの友がR I から地域雑誌としての認められるための資格要件などの他、ロータリーの友誌に掲載された内容から是非紹介したいと思ったハーバート・テイラーの「四つのテスト」が生まれたいきさつの記事をもとに更に他の本で読んだことなどを合わせたものや、ジョージ・ソロス氏がポリオ撲滅のために口財団に多額の寄付をしたいきさつなど、いずれもロータリーの友に掲載された内容の紹介というべきものであった。之もロータリーの友に少しでも興味をもって抱いていただければとの思いからであった。

(〇月西蔵大) 八番 谷高 登 隆 登
 (〇月央中蔵大) 四番 口西 隆 登
 (〇月東大) 七番 中田 隆 登

会員要覧

一年を振り返っての感想

ロータリーの友委員に選任されなければしなかったであろう（今迄したこともなかった）、ロータリーの友を精読し理解し簡潔に内容をまとめて会員に紹介するという作業を通じてロータリーの社会も世界は広い、奉仕活動のあり方も種々様々であることを知った。之もロータリーが色んな職業から選ばれた人々の集まりであり、色んな発想が交換されて生れてくる知恵の表れであろうと思われる。地域社会への奉仕は重要であり、奉仕活動も先ずそこから出発するのであるが、一方世界には生存する為に克服すべき難問におそわれている人々がいて救いを求めており、そのような人達に救済のための資金の提供のみでなく身を挺して救援活動に従事している人々がいることを、ロータリーの友によって具体的、現実的に知ることが出来る。私にとってロータリーの友はこのような意味をもつ雑誌である。

財務委員会

委員 長	高谷	晋介	(大阪西南RC)
委 員	西口	宗宏	(大阪中央RC)
委 員	田中	昌之	(八尾RC)
会 計	油井	滋	(大阪西南RC)

会員数が減少する傾向にある状況下、収入予算に制約があるため、地区委員長からの事業計画・予算について、十分なヒアリングを行いました。その上で、財政面からの地区活動の効率化並びに合理化の観点から過去の支出実績等も勘案して、メリハリの効いた予算の策定に努めました。

本年度の決算の概要は次のとおりです。

(1)一般会計

○「地区運営資金」の収支に関して

- ① 「地区運営資金」の収入予算は、会員数3900名と見込んで策定致しました。「地区資金収入」の実績は、ほぼ見込み通りで、予算37,050,000円に対して実額37,289,875円でありました。また、R I 助成金・雑収入を含む地区運営資金の収入合計ベースでは、予算39,550,000円に対して、実額41,714,622円となっておりますが、これは、雑収入の増加に起因するものです。即ち、地区協議会のホストクラブからの残金返戻金を予算上は保守的にゼロと見ておりましたが、ホストクラブから1,632,007円の返戻がありましたので、ガバナー月信購読料収入等含めて2,355,751円の雑収入を計上することが出来たからであります。
- ② 一方、支出予算に関しましては、皆様のご協力の甲斐もあって、運営資金の総支出予算額41,910,000円に対して、実績41,569,564円と支出予算を僅かに下廻る結果とすることができました。但し、各費目別にみますと、予算超過の科目もありましたが、予備費予算からの充当処理及び「科目間流用ルール（本年度設定）」の定めに従い、地区運営資金の総支出予算範囲内の他科目予算からの充当処理によりすべて対応することができました。予備費の使用・予算の科目間流用につきましては、申請に基づきルール通りに処理しております。
- ③ 以上の結果として、収支差額は予算において、2,360,000円の赤字を見込んでおりましたが、実績では、145,058円の黒字を計上することができ、僅かではありますが、繰越金（次期繰越金26,335,483円）を増加させることになりました。

○「地区活動資金」の収支に関して

- ① 「地区活動資金」の実績収入に関しましても、ほぼ予算通りの29,439,375円の計上となりました。
- ② 一方、支出に関しても、各委員会との事前の活動計画と活動予算のヒアリングにより適切なる予算策定とその運用が出来たと考えております。各委員会の予算超過支出につきましても、地区運営資金同様の手続きに従って、4件の「予備費使用申請書」を提出して頂きました。又、研修委員会の予算の超過は、当初活動計画では予算化されておりましたが、研修委員会のメンバーの皆様が力を込めて編集されました「ロータリーの心と実践」の出版・配布費用であります。これへの対応は、先にも述べました、「科目間流用ルール」に基づいて対応させて頂きました。
- ③ 以上の結果として、各委員会の総活動費支出実績（32,080,156円）は、地区活動資金の総支出予算（32,780,000円）の範囲内に収まりました。その為、収支差額は予算において3,530,000円の赤字を見込んでおりましたが、2,640,781円の赤字に止まり、次年度繰越額は26,347,773円となりました。

(2)特別会計及び地区基金

- 「地区大会資金」については、全員登録をして頂き、前年度繰越金7,833,885円及び本年度地区資金からの繰入額19,855,000円を地区大会会計に充当しました。収支報告は、地区大会記録書に記載のとおりであり、次年度繰越金は7,905,257円となり、前年度に比べて71,372円の増額となりました。
- 「米山奨学生活動費」は（財）米山記念奨学会からの補助金と会員からの登録料で運営され、収入合計は3,096,336円でした。剰余金は財団へ返金され、繰越金はありません。
- 「世界社会奉仕基金」は、収入として、クラブからの拠出金が1,182,888円であり、プロジェクト資金として支出が1,262,587円でした。次年度繰越金は、前年度繰越資金2,235,758円と収支差額分（赤字）△91,099円の合計2,144,659円となりました。
- 「R I 規定審議会派遣積立金」は、本年度は従前通りに400,000円の繰入金の増加を行いましたが、3年に1度開催される派遣事業費947,000円を計上した結果、次年度繰越金は654,400円となりました。
- 「ロータリー研究会準備基金」は、予算通り1,000,000円を地区活動資金から繰入れを行うと共に、同額をロータリー研究会会計に繰入支出致しました。従って、次年度繰越金はゼロとなっております。
- 「地区基金」については、地区財政基盤の安定確保のための基金であり20,000,000円を固定化しております。以上の結果、次年度繰越金は、特別会計10,704,316円、地区基金20,000,000円合計30,704,316円となりました。

(3)総括

当初の予算では、単年度で赤字の予算（運営資金予算：△2,360,000円、活動資金予算：△3,530,000円）を組んで、繰越資金を取崩して予算策定しました。しかし、決算の結果は、「地区運営資金」につきましては僅かではありますが黒字（145,058円）を計上し、地区活動資金につきましては、予算に比べて赤字を減少することができました（予算△3,530,000円 → 実績△2,640,781円）。これは、予算策定の段階から、各委員会の皆様のご協力により、活動内容の見直しと経費削減にご理解を賜り、地区会員の皆様が結束して、ご尽力下さった結果だと考えております。各委員会の皆様には、予算の範囲内での運用に、ご協力下さいましたことに、深く感謝申し上げます。厳しい経済情勢と会員の減少が続く中、今後さらに財政基盤を安定させるためには、地区活動全般について、予算面からも更なる見直しを続け、予算精度の向上を諮る必要があるものと考えます。

最後に、今後の財務委員会の課題といたしましては、地区運営資金の次年度繰越金（26,335,483円）及び地区活動資金の次年度繰越金（26,347,773円）併せて52,683,256円の繰越金の有効活用について、検討を重ねて行く必要があるものと思料するところです。

2009～2010年度 国際ロータリー第2660地区 地区資金決算書

2009年7月1日～2010年6月30日

ガバナー 大谷 透
代表幹事 四宮 孝郎
財務委員長 高谷 晋介

地区運営資金

【収入の部】

(単位：円)

科目	予算額	実績	備考
1. 地区資金	37,050,000	37,289,875	
2. RI助成金	2,000,000	2,068,996	
3. 雑収入	500,000	2,355,751	
収入合計	39,550,000	41,714,622	

【支出の部】

(単位：円)

科目	予算額	実績	備考
A. 負担金			
1. ガバナー会	800,000	803,600	*
2. ロータリー文庫	1,200,000	1,169,400	
3. 平和奨学生支援協力金	60,000	58,290	
小計	2,060,000	2,031,290	
B. 会議費			
1. PETS・地区チーム合同セミナー	900,000	1,659,462	*
2. 合同地区委員会	1,000,000	899,550	
3. 財団セミナー	500,000	449,310	
4. DGPGGE会議	500,000	0	
5. G補佐・地区幹事会	50,000	4,200	
6. GE国際協議会	730,000	730,000	
7. 予備費	100,000	0	
小計	3,780,000	3,742,522	
C. ガバナー経費			
1. ガバナー事務所経費	29,850,000	30,162,226	内訳別掲 * 予備費使用
2. ガバナー月会費	5,500,000	5,465,696	
3. ガバナー補佐経費	300,000	67,830	
4. 直前DG記念品	100,000	100,000	
小計	35,910,000	35,795,752	
D. 総予備費	160,000	0	
	-160,000		申請1件
支出合計	41,910,000	41,569,564	
収支差額	-2,360,000	145,058	
前年度繰越金	9,397,588	26,190,425	
次年度繰越金	7,037,588	26,335,483	

*印は中科目間流用

ガバナー事務所経費

(単位：円)

科目	予算額	実績	備考
1. 家賃・光熱費	4,500,000	4,322,500	
2. 給料・手当	16,250,000	16,922,540	
3. 社会・労働保険料	2,300,000	2,327,089	
4. コンピューター関係費用	1,300,000	1,285,066	
5. DGGE交通会合費	900,000	920,035	
6. 印刷費	1,400,000	1,432,373	
7. 交通通信費	1,500,000	1,569,476	
8. 文献費	100,000	54,450	
9. 事務用品費	600,000	661,326	
10. 什器備品費	200,000	176,630	
11. 雑費	500,000	490,741	
12. 予備費	300,000	0	
合計	29,850,000	30,162,226	

地区活動資金

【収入の部】

(単位：円)

科目	予算額	実績	備考
1. 地区資金	29,250,000	29,439,375	
収入合計	29,250,000	29,439,375	

【支出の部】

(単位：円)

科目	予算額	実績	備考
A. 地区委員会活動費			
1. DG指名(委)	50,000	0	
2. 意義ある業績賞(委)	30,000	0	
3. クラブ奉仕部門			
クラブ奉仕・拡大増強(委)	600,000	567,560	
広報(委)	700,000	776,224	予備費使用
	77,000		
4. 職業奉仕部門			
職業奉仕(委)	360,000	407,145	予備費使用
	78,750		
5. 社会奉仕部門			
社会奉仕(委)	500,000	960,728	予備費使用
	500,000		
6. 青少年奉仕部門			
新世代合同委員長会議	40,000	0	
青少年活動(委)	6,300,000	6,299,625	
ローターアクト(委)	5,400,000	5,395,950	
青少年交換(委)	6,300,000	6,610,740	予備費使用
	410,000		
インターアクト(委)	2,200,000	2,142,362	
7. 国際奉仕部門			
国際奉仕・WCS(委)	400,000	343,442	
8. ロータリー財団部門			
ロータリー財団(委)	300,000	97,913	
財団情報・増進(委)	50,000	48,602	
財団奨学金・学友(委)	800,000	502,524	
研究グループ交換(委)	2,700,000	2,305,284	
財団人道的補助金(委)	50,000	20,204	
9. 米山奨学部門			
米山奨学(委)	400,000	381,233	
10. RI規定審議会派遣積立金	400,000	400,000	
11. RIJYEC維持協力金	400,000	391,000	
12. 予備費	1,200,000	0	
	-1,065,750		申請4件
小計	29,180,000	27,650,536	
B. IM広報活動補助金	2,400,000	2,400,000	
C. 研修委員会	200,000	1,029,620	※地区委員会活動費を流用
D. ロータリー研究会準備基金繰入れ	1,000,000	1,000,000	
支出合計	32,780,000	32,080,156	
収支差額	-3,530,000	-2,640,781	
前年度繰越金	17,333,410	28,988,554	
次年度繰越金	13,803,410	26,347,773	

※印は大科目間流用

地区資金決算書

特別会計

1. 地区大会資金

(単位：円)

科目	予算額	実績	備考
前年度繰越金	6,284,673	7,833,885	
地区資金	19,500,000	19,855,000	
地区大会会計へ	19,500,000	27,688,885	
地区大会会計から戻入		7,905,257	
次年度繰越金	6,284,673	7,905,257	

※地区大会会計の詳細については地区大会記録に収支計算書を掲載しております。

2. 米山奨学生活動費

米山奨学委員会 委員長：村橋 義晃

(単位：円)

【収入の部】

科目	予算額	実績	備考
(財)米山記念奨学会より	2,700,000	1,780,000	
選考試験補助金		450,000	
カウンセラー研修会補助金		147,000	
ホームカミング補助費		250,000	
レクリエーション登録料		364,000	
米山奨学歓送会登録料		105,000	
受取利息		336	
収入合計	2,700,000	3,096,336	

【支出の部】

(単位：円)

科目	予算額	実績	備考
レクリエーション	2,700,000	713,850	
米山活動費 歓送会		1,036,550	
オリエンテーション		550,583	
ホームカミング		308,150	
米山奨学会学友会支援		480,100	
(財)米山記念奨学会へ返金		7,103	
支出合計	2,700,000	3,096,336	
収支差額	0	0	
前年度繰越金	0	0	
次年度繰越金	0	0	

3. 世界社会奉仕基金

国際奉仕・WCS委員会 委員長：戸田 和孝

(単位：円)

【収入の部】

科目	予算額	実績	備考
クラブ拠出金		1,182,888	
受取利息		600	
収入合計		1,183,488	

【支出の部】

(単位：円)

科目	予算額	実績	備考
プロジェクト資金		1,262,587	
送金手数料		12,000	
支出合計		1,274,587	
収支差額		-91,099	
前年度繰越金	1,604,219	2,235,758	
次年度繰越金	1,604,219	2,144,659	

4. RI規定審議会派遣積立金

(単位：円)

科目	予算額	実績	備考
前年度繰越金	1,201,400	1,201,400	
地区活動資金繰り入れ	400,000	400,000	
実際派遣事業	0	947,000	
次年度繰越金	1,601,400	654,400	

5. ロータリー研究会準備基金

(単位：円)

科目	予算額	実績	備考
前年度繰越金	0	0	
地区活動資金繰り入れ	1,000,000	1,000,000	
研究会会計へ	0	1,000,000	
次年度繰越金	1,000,000	0	

地区基金

(単位：円)

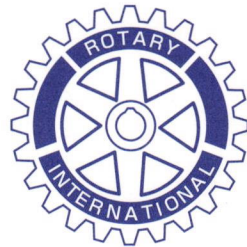
科目	予算額	実績	備考
前年度繰越金	20,000,000	20,000,000	
受取利息	0	0	
利息を地区運営資金へ繰り入れ	0	0	
次年度繰越金	20,000,000	20,000,000	

監査報告

私は、国際ロータリー第2660地区の2009～2010年度 地区運営資金、地区活動資金および特別会計について監査した結果、正確適正であることを確認します。

2010年8月2日

会計監査 松尾 雅明 



ROTARY INTERNATIONAL
DISTRICT 2660